

勝林寺寺報

前々住職 アメリカ外遊記(裏面)



前々住職・前々坊守25回忌法要お礼
さる四月二日
勝林寺前々住職 真徹院釈隆雄法師
前々坊守 通達院釈善趣法尼
二十五回忌法要を無事お勤めさせていたしました。
勝林寺ご門徒並有縁の方々にご厚誼たまわり、重ねてお礼申し上げます。

またその折に帰国しておりました孫と一緒に、前住職が渡米いたしております。元気な様子を便りしてきましたので、裏面に掲載いたします。

勝林寺納骨研修旅行 6月4日5日

法名	能発院釈昇司	滋眼院釈證知	釈守宝	釈普照	釈常念大姉	釈普放	釈淨達	至修院釈安宅	釈知節	釈耕道	釈幸安	釈法勢
俗名	湯口昇司	湯口昇司	湯口昇司	湯口昇司	湯口昇司	湯口昇司	湯口昇司	湯口昇司	湯口昇司	湯口昇司	湯口昇司	湯口昇司
遺族	兼井まち	湯口昇司	湯口昇司	湯口昇司	湯口昇司	湯口昇司	湯口昇司	湯口昇司	湯口昇司	湯口昇司	湯口昇司	湯口昇司

先月寺報でもお知らせしております、勝林寺納骨研修旅行が6月、4日5日の行程でおこなわれます。チラシを見ていただき、たくさんの方にご参加いただきたいと思います。
昨年から今年にかけて、たくさんの方々がお亡くなりになりました。中には数年前の研修旅行に参加していただき、大谷本廟にともにお参りし、その後楽しく懇談旅行したお同行もあります。さみしくもありますが、ますます俱会一処（くえいしょ）の教えが実感され、頼もしく思っています。

今日までで、今回納骨させていただく皆様の御名前を挙げさせていただきます。

	1	3	4		5	7	8	9	10	11	14	15	21	25	26	28
	日	火	水		木	土	日	月	火	水	土	日	出石高校P.T.A.総会	木第39回 念仏奉仕団	水第39回 念仏奉仕団	土 中川信宅 一周忌
5月の日程	湯口裕宅	谷垣栄宅	一周忌	数森正幸宅	上法事	山田正二宅	上法事	木兵庫教区仏事総会	永井ひろ子宅	一七回忌	斎藤義弘宅	一三回忌	関川永宅 墓おまいり	降誕会		

前住職アメリカ外遊記

一時間半ばかり、街中を徘徊、散策の途次、見たり聞いたり感じたりしたこと、思つたままに列挙してみることにします。

何もかもほったらかしにして突然日本を離れてしまつた。気になること一杯残したまま、その第一がやつぱり「寺報」のことでした。

その寺報の五月号をいつも通りの出してくれると言う。門徒の皆さんと一緒に作つてきたあの寺報を、ここで途切れさせては申し訳ないと言う気持ちが救われて、本当に嬉しうれのこぼれるほどありました。

その寺報に今度の外遊記を書けという。

八十歳の老人が、突然に十時間飛行機に乗つてアメリカ西海岸、エルサリートという街にやつてきて、何もかも、おつかなびっくり。外の世界に接触するのが恐ろしくて、自分一人の暮らしに閉じこもつたまま、この二十日ほどの日々を暮らしてきましたばかりで、外遊記、旅行報告なんて書けるわけもないのだけれど、そんな暮らしながら、必ず毎日、早朝、

このエルサリートと言う街は、サンフランシスコ湾をのぞむ丘陵地帯一円に広がつた美しい街。海辺の産業地帯より、私は好んで山間森林地帯に点在する住宅街を歩くことにしている。森林大木の生い茂る中に、リスや鹿を見かけることもある。

野鳥の声が雨のように降つてくる。その林の中に、こじんまりした住宅が立ち並ぶ。そしてその住宅には、必ず芝生を敷き詰めた庭があり、色とりどりの花が咲いている。春の花、夏、秋の花までが咲いているのがめずらしい。特に、山の手の方は「老人の街」だそうだが、それだけに、庭の手入れなども行き届いている。

こんなところを毎日歩いていて、一番感じたことは、人の暮らしの隅々までに、自然に行政が染み込んでいるということだ。街路の隅々まできれいで掃除しているのは、行政の人たちである。のみ収集も、大型車を駆使して、まことに秩序よくなされ

ている。そうした行政サービスの中には、この町の人の暮らしが保たれているのだという気がする。

それから、ここに来て最も強く感じたことは、特に青少年や女性にとつて、非常にクリーンだということだ。ジユース、たばこの自動販売機がどこにもない。扇情的な図書や広告がまったく目に付かない。

これは、わたしには、困ったことだ

が、外食店でも酒類は、ほとんどない。そればかりでなく、公害になるようなこと、地球環境に傷害になるようなことはみんなで自主的に、自制し合つてているようみえる。第一交通マナーが、日本に比べて格段にいい。歩行者優先が徹底している。アメリカは、京都議定書に調印していないと非難しているが、批准するしないより前に、誰言うともなくみんながその方向に自然に歩いてい

る、というのがどれほどすばらしいのかを如実にみたようなきがする。

こんなところです。

「仕事」がないのが一番不自由しています。長男夫婦の住む住宅の庭の掃除やお炊事の手伝いなどしてみてもすぐに済んでしまいます。“仕事”のないことを「シヨシヤがない」といいましたが、あれは「所作」のなりで、要するに“仕事がない”もつと言えば「生きがいがない」ということ、だったのだと今さらながら思うこのごろです。

はやく帰つて何でもいいから、皆さんと一緒に、家族と一緒に仕事がしたいというのが、今の私の願いです。

縦横に走る街路樹のある道路には、それぞれの名前がついている。どこでもその道路名の表示が掲げられ